

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	041100230		
法人名	社会福祉法人 ライフケア赤井江		
事業所名	あぶくま		
所在地 (電話番号)	岩沼市阿武隈1丁目8-38 (電話) 0223-25-6650		
評価機関名	特定非営利活動法人介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成 19年 10月 18日		

## 【情報提供票より】( 年 月 日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成17年3月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人 人
職員数	16 人	常勤16人 非常勤	人 常勤換算 人

## (2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	造り	
	1 階建ての	1 階 ~ 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,100 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷 金	有( 円)	○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

## (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名	
要介護1	2 名	要介護2	9 名			
要介護3	4 名	要介護4	2 名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	82.8 歳	最低	71 歳	最高	94 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	南浜中央病院
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

岩沼市の南に位置し木造の2ユニットホームである。天井が高いので採光も良く廊下や居室には手作りの飾り物や手芸品がさりげなく飾られ良い雰囲気をかもしだしている。廊下に適宜配置したイスやソファーを利用したり掘りごたつのある和室でくつろいでいる様子がかがえた。運営推進会議も順調に行われ新しくできたグループホームの見学なども行っている。又、会議のメンバーから情報を入手しそれを入居者の支援に生かしている。所長、職員共にお互いの立場を尊重しコミュニケーションもとれ理想的なホームと感じた。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善を要するとした課題のうち①バックグラウンドを収集しケアに生かしていた。②緊急時の手当てについては定期的な訓練や講習会に参加するなどして身につけている。③緊急時の対応についても夜間を想定した訓練や通報訓練、消防署員立会いの訓練などを行い自信ができてきた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価票については全職員に項目を振り分け話し合っまとめ、取りまとめたものである。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は事業所からホームの運営状況を報告した後、委員から意見や要望聴取して双方向的に進めている。8月の会議は新しくできたグループホームの見学なども行い情報を収集している。会議の活動を通じてホームへの支援の輪が広がっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	相談・苦情は今まで1件もないが、玄関に苦情処理のポスターを掲示したり面会時や家族の集いなど意見を聞いて対処している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームは地域社会の住民の一員として町内会に加入している。周りは農家が多く、いちじく、枝豆、さつまいも、鮭などの差し入れがある。評価当日も差し入れされた鮭で、はらこめしをつくっていた。一方、地域社会の方々もホームの芋煮会などに参加しボランティアとして手芸、手品、よさこい踊りなどの訪問がある。地域社会の方々との交流が深まり相互の信頼関係も築かれている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	このホームの理念は、このホームが独自に作り上げたものであるが17年の開設時に決めたものをそのまま踏襲している。尚、地域密着型サービスについても見直しをしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は毎日の生活の中で話し合っている。入居者の諸活動、近隣の方々との交流などに生かされ相互の信頼感を高めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは町内会に加入している。入居者は美化の日、廃品回収、防災訓練、総会などに参加し、地域社会の方々もホームの芋煮会、スイカ割りなどに参加している。ボランティアとして手芸、手品、よさこい踊りなどの訪問がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の実施にあたりその評価の意義とねらいについてすべての職員で話し合い自己評価に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は事業者からの事業報告と参加者から質問、意見、要望を聴取し双方向的に運営している。会議で出された意見により口腔ケアや玄関にセンサーをつけるかなどについて検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市に対してホーム側から事業への理解と支援を要請して運営推進会議への参加や市主催の研修会に参加している。市側からの事業の受け入れはない。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が来訪したときは声を掛け、必ず入居者の状況を伝えると共に入居者のことについて話し合っている。月1回広報誌を送付している。入居者の金銭管理については毎月1回は書面で報告しサインももらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情はまだ1件もないが常時家族の意見や苦情を来訪時に聴取すると共に、苦情相談の受付先としてホームの担当者と解決責任者の氏名、行政機関、第三者委員などを重要事項説明書に記載し、ホーム内にも掲示して、意見や苦情を伝えることができることを繰り返し説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者と職員のなじみの関係を重視し異動を最小限に抑えている。同じ事業所内の異動なので遊びに來たりするので不安感は最小限に抑えられている		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には日常的に学ぶことを奨励している。すべての職員が研修会などに参加できる機会を設け研修内容を報告する機会をつくっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の組織であるグループホーム協議会に加入しているので各種資料の送付があり、すべての職員が同業者と交流する機会がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になじみながら本格的な入居に移っていただけるように調整している	入居予定者とその家族にはホームを見学してもらい本人が職員やサービスになじみながら本格的な入居に移っていただけるように調整している。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の得意な分野(調理、清掃、園芸、農作業、囲碁)で力を発揮してもらっている。職員が入居者から生活の技や生活文化の大事さを教えてもらうこともある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的なふれあいの中から入居者の一人一人の思いや暮らし方、希望や意向を把握するように努めている。本人のことを良く知っている家族などを交え本人の視点にたって話し合っている。得られた情報は職員間で共有化している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日ごろのかかわりの中から本人やその家族の思いや意見を聞き、すべての職員が話し合い必要な支援を盛り込んだ具体的な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の急変時には当然介護計画を見直している。最低3ヶ月に1回の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や特別な外出、外泊などで支援が必要な場合には柔軟に対応し、それぞれが満足を得られるように支援している。近隣の高齢者が必要に応じてショートステイやデイサービスを利用できるよう将来的には考えている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のかかりつけの医師や医療機関と良好な関係を築き本人やその家族が希望する医師や医療機関に受診できるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者が重態に陥った場合の対応を入所時から家族と話しあっているが家族は入院を希望し今まで看取りの経験はない。今のところ実施する予定はない。	○	入居者本人が終末期をホームでむかえたいと希望した場合、医療機関と連携をとり本人の希望をかなえる方法を検討してほしい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の入居者への声がけや態度やかかわり方がゆったりしており声の調子も柔らかである。職員は入居者を尊重して呼びかけ、本人の承諾を得た上で居室に入りしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活の周期に配慮して本人なりの速さで行えるように声がけしている。職員は一人一人の入居者の「その日にしたいこと」を把握し入居者が主体となって暮らせるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、食事の後片付けなどを入居者の力を生かしながら職員も一緒に行っている。入居者と職員が同じ食卓で同じ食事を摂り、職員はさりげなく支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者のこれまでの生活習慣や好み、希望を聞いてその人に合った入浴ができるように支援している。浴室は毎日利用でき毎日のように入浴している人がいるし気のあった入居者同士が二人で入浴していることもある。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員はそれぞれの入居者の習慣、志向や能力をふまえて本人の役割や楽しみごとへ参加できるように支援している。具体例としては庭の草取り、居室の掃除などである。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員は入居者がなじみの店や場所に出かけられるように支援している。買い物、散歩、初午、どんと祭、夏祭り、市の文化祭などに出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は居室、玄関共に鍵をかけていない。職員はそれぞれの入居者の外出の癖や傾向をつかんでおり見守りや付き添いで対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策のマニュアルを作成しすべての職員に周知している。通報訓練、夜間想定避難訓練、消防署員立会いの訓練も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの入居者の食事と水分の摂取量を記録している。同法人の栄養士に献立をチェックしてもらい献立を作成している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明や日差しの調節、換気、テレビの音量、職員の会話の音量は適切である。共用空間には季節の飾り物や手芸品がさりげなく飾られ居心地の良いスペースとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのものを持ってきてもらえるように家族に働きかけている。それぞれの入居者が自分に適した居心地の良い居室で生活している。		